

パテイオ



子供たちのための外科医体験教室



身体測定・健康相談等



盆踊り会場（当院駐車場にて）

夏まつりの実施について

当院では、7月21日・22日に栄町自治会との共催による「栄町・豊島病院夏まつり」を開催しました。イベント・盆踊りの2部構成とし、イベントでは「子供たちのための外科医体験教室」「身体測定コーナー」など、様々なイベントを実施しました。イベント参加者からは非常に好評のお声をいただいております。また、夜間には当院駐車場にて櫓を建て、盆踊りも行いました。次年度もより良いイベントになるよう、引き続き栄町自治会と協力し、開催していきたいと思っております。

アサガオの展示

毎年7月に、当院近くにある中根橋小学校の1年生が、生活科の学習で育てたアサガオの鉢を地域の人たちにも見ていただきたいと、持ってきてくださいます。今年は、6月29日～7月9日の間、1Fエスカレータ脇に展示しました。今年は青や紫の花を多く見ることができました。中根橋小学校の皆さん、ありがとうございました。



生花の展示のご案内

当院1F玄関（受付横）にて、7月から生花の展示を行っております。お時間ある方は、是非一度ご覧いただければと存じます。毎週、展示を交換しておりますので、再診等でいらっしゃる方は、今週は何が展示されているかな？と楽しみにされるのはいかがでしょうか。



豊島病院 予約センター 03-5375-5489（紹介予約制）

予約受付時間 平日9時00分～19時00分 土曜日9時00分～12時00分

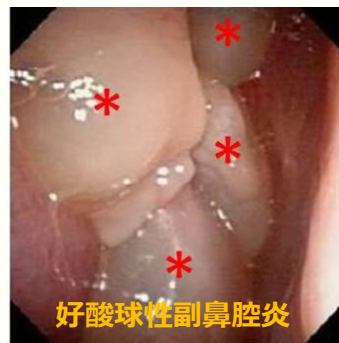
こうさんきゅうせいふくびくうえん

好酸球性副鼻腔炎とは？

好酸球性副鼻腔炎は、両側鼻内に多発性の鼻茸（ポリープ）ができて、手術後も再発のしやすい難治性の副鼻腔炎です。この鼻茸を顕微鏡で調べると「好酸球」という免疫細胞が多数認められるため、好酸球性副鼻腔炎と名付けられています。また、気管支喘息やアレルギー体質の方に多いのが特徴です。特に成人になって喘息を発症している方の中には好酸球性副鼻腔炎を合併している方が多いようです。

どんな症状？

嗅覚障害（においが鈍い）から始まって、鼻づまり、黄色っぽい粘っこい鼻汁、鼻くそ、頭痛などの症状が徐々に出現します。さらに進むと、味覚障害、耳漏、難聴など他の部分にも影響があります。



* : 多発する鼻茸

治療方法は？

唯一効果があるのはステロイドの内服治療とされています。大きくなった鼻茸を手術で切除することで鼻閉感は一時的に改善しますが、それで全て終わりという訳にはいきません。厚生労働省の調べでは、6年間で約50%の方が再発すると言われています。全く手術が有効でないとは言いませんが、術後も定期的な通院（メンテナンス）が必要となります。ステロイドを長期的に服用することは、副作用もあるので慎重投与が必要ですが、感冒などで症状が悪化した際には適宜ステロイドを使用したり、さらに悪化する場合は再手術を検討しなければなりません。

残念ながら、この病気になったら、喘息と同様にほぼ一生治療が必要と考えて下さい。

難病指定について

好酸球性副鼻腔炎は、平成27年7月に厚生労働省により難病に指定されました。医療補助制度の利用が可能となるため、該当する方は申請をお奨めします。そのためには好酸球性副鼻腔炎に合致するかどうか判定が必要です。当科では難病指定医の資格を取得しており、年間10~15人程度の新規申請を行っております。まずは耳鼻咽喉科外来へ受診して下さい。



誌名である「パティオ」はスペイン語で中庭のことで、当院1階にある患者さんや職員にとっての憩いの場所です

公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 <http://www.toshima-hp.jp> 東京都板橋区栄町33-1

(病院代表) 03-5375-1234 (予約専用) 03-5375-5489

豊島病院広報誌第92号 発行者：安藤 昌之（豊島病院副院長） 編集：企画係

